

図書情報センターニュースレター

(旧 図書館ニュースレター)

(改訂版) 第3号

■図書館の電算システムが更新されました！

図書館 乾 和人

2022年初、図書館の電算システムを更新しました。既にOPAC等をご利用の方には、レスポンスが格段に改善されていることを実感していただけていると思います。

本館の長年の課題がいくつも改善されています。例えば、館外から貸出中資料の貸出期間延長が可能になりました。(ただし、延滞資料のある場合や、他の利用者が予約済みの資料などについては延長できません。)延長可能回数は2回までです。実習期間中など長期間ご来館いただけない場合などにぜひご活用ください。

資料の検索ページから直接文献複写サービスを申しただけできるようになりました。従来は書誌情報などを転記した申込書を提出いただく必要がありましたので、手間と入力間違いを大幅に軽減できるようになりました。学内では閲覧できない文献を他機関から取り寄せますので、学習や研究にお役立てください。

以前からご要望が多かった自動貸出機の導入を現在準備中です。もうしばらくお待ちください。2022年度のなるべく早い時期に稼働すべく鋭意開発中です。その他細かい部分で多くの改善点があります。図書館システムに関することに限らず、ご不明な点がございましたら図書館まで遠慮なくお問合せください。

■図書館蔵書充実プロジェクト*新規購入書籍リスト(2021年度3期目)

2021年夏から、図書館の蔵書、特に看護学部生にとって役立つ書籍や各種看護系学会や研究会で話題の書籍等をいち早く図書館に揃えていくプロジェクトが活動しています。第3回目の購入図書を紹介します。ほぼ全冊が閲覧・借用可となっています。

- ・『看護基礎教育におけるシミュレーション教育の導入』日本看護協会出版、2018年
- ・『臨床実践と看護理論をつなぐ指導』日本看護協会出版、2021年
- ・『病期・発達段階の視点でみる 小児 看護過程』照林社、2021年
- ・『地域人 第63号 健康で幸福なまちをつくる』大正大学出版会、2020年
- ・『家族看護を基盤とした 地域・在宅看護論 第5版』日本看護協会出版会、2021年
- ・『ストレングスからみた 精神看護過程：+全体関連図, ストレングス・マッピングシート』医学書院、2021年
- ・『地域・在宅看護実習ハンドブック』中央法規出版、2021年
- ・『社会的処方：孤立という病を地域のつながりで治す方法』学芸出版社、2020年
- ・『地域とゆるくつながろうーサードプレイスと関係人口の時代ー』静岡新聞社、2019年
- ・『ケアするまちのデザイン：対話で探る超長寿時代のまちづくり』医学書院、2019年
- ・『まちづくりとしての地域包括ケアシステム』東京大学出版会、2017年

(裏に続く)

- ・『わたしたちのウェルビーイングをつくりあうために その思想、実践、技術』ビー・エヌ・エヌ新社、2020年
- ・『集まる場所が必要だー孤立を防ぎ、暮らしを守る「開かれた場」の社会学』英治出版、2021年
- ・『地域包括ケアを実現する高齢者健康コミュニティ』九州大学出版会、2014年
- ・『保健福祉職のための「まち」の健康づくり入門』ミネルヴァ書房、2021年

※図書館蔵書充実プロジェクトは、本学の図書館情報センター委員会のメンバーによるプロジェクトで、現在は、看護系教員3名のメンバーで活動しています。

■図書館2階キャレルコーナー「私の書斎」利用者から

2021年秋開始の館内2階閲覧個室(キャレルコーナー)を利用したキャンペーン「私の書斎」利用者の森内佳奈さん(2020年度学部入学)から「私の書斎」利用の感想をいただきました。

「私は、家に帰ると勉強のやる気が起きなかつたり集中できなかつたりするため、授業の課題がなかなか進まず困っていました。そこで「私の書斎」を利用しました。一定期間自分しか使わないため、教科書などを置いたままにできたり、毎回部屋を借りる手続きをしなくても使いたい時に使うことができたりしたことが良かったと思います。

個室になっているため周りを気にすることなく、家とは違って誘惑もなく、勉強モードに気持ちを切り替えられるため私にとって集中しやすい環境でした。空いた時間に1時間だけ利用したり、課題が多い時期には閉館の時間まで利用したりしたこともあり、とても助かりました。」 *「私の書斎」は、キャレルコーナー3室を希望者に2か月間の継続利用を可能とするキャレルコーナー利用促進プロジェクトによるものです。今回の「私の書斎」利用希望者募集と抽選は4月半ばの予定です。多くのご応募をお待ちしています。詳しくは図書館カウンターへ。

■図書館情報センター ノート

いよいよ春本番、一足早いアセビやヒサカキに続いて、今まさに盛りのサクラ、そしてこれから様々なツツジ類へと花の豪華リレーが始まる季節の到来である。今回紹介する書籍は、「花ひらく神戸ー六甲山とその周辺に咲く花ー」(ほおずき書籍、1996年)。著者の安原修次氏は、48歳で教員を辞し、全国各地に滞在しながら土地土地の花の写真集を出版。数々の美しい野の花の写真とともに、その花との出会いの情景や自然への思いを綴った文章は詩のように感じられる。本書は1986年と1996年に神戸を取材したもので、ちょうど本学開学の年に出版されているが、その前書きに「十年ぶりに神戸へ来て驚いた。大震災の被害の地、住宅地造成、道路建設などにより自然が大きく失われつつある。六甲の山にはいくつものトンネルができ、便利になったと喜んでばかりはられない(後略)」とあり、盗掘によって消えていった野草への想いも綴られるなど、1冊を通じて生命への著者の温かい眼差しが心に沁みる。本書に刺激されて書かれた、清水孝之氏の「六甲山の草花ハンドブック」「六甲山の樹木ハンドブック」も含め、いずれも本学図書館にあるので、あわせて紹介したい。他者の心身に寄り添おうとする人は、ふと路傍の生命にも目を留め、その健気さを慈しめる人でもあってほしいと思う。そういえば、最近、個人的に街路樹などの不自然ともいえる伐採や剪定が気になっているが、はたと翻って教育の場において学生に対してそのようなことをしていないか自問している。ともあれ、これから心弾む季節を楽しみませんか？

(二木啓・専門基礎科学領域医科学分野・図書館情報センター委員会委員)

★図書館情報センターニュースレターは不定期で刊行しています。本学HPの図書館ページに掲載し、学内には「いちかん」等にて配信いたします。図書館内では紙媒体でも若干部数をご用意しますのでご自由にお取り下さい。